

G

グランシップマガジン
[ジー]

GRANSHIP magazine
DECEMBER 2003 第21号



次代を創る顔②
new comer

女優 **長澤 まさみ**

しずおかアーティスト・リレー③

現代書家
イデオグラファー **大杉 弘子**

SPECIAL
2003年しずおか
連詩の会

「水平線」の巻

SERIES わが羅針 第21回

竹本 素京

「芸は心。義太夫は心。」

小特集

聞いて感動!見て楽しい!
これが音楽パフォーマンス
Moving Music Express

「MME」

村松友視の文化漫遊⑦

「文房具屋はワンダーランド」

GRANSHIP
静岡県コンベンションアーツセンター

二〇〇三年 しずおか

「水平線」の巻

連詩の巻

生と死。白と黒。空と地。
「水平線」から始まった、
今年の連詩、全四十編。

連詩と聞いて、初めは何のことやらさうばり……。そんな人も五年目ともなると、今年のゲストはこの国の人だろう。“どんな世界になるだろう”と、さまざまな期待がふくらむ。まさに継続は力だ。

グランシップ開館の年から始まった「しずおか連詩の会」も、回を重ねること五回。初回は、ドイツから二人の詩人を招いて開かれ、以来、中国、フィン

ランド、アメリカと続き、今年のゲストはオランダからこの静岡へとやって来た。そんな遠来の詩人二人は、どちらも詩のみならず、小説やエッセイでも知られた文筆家で、そうした幅広い言葉世界もまた、今回の楽しみのものである。

さらに遠来といえば、今回初参加の四元康祐氏は、ミュンヘン在住、しかもサラリーマンの顔をあわせ持つ人物。また、同じく初参加の小池昌代氏は、デビュー当時からその才能を広く支持された人気の詩人であり、これらの詩人らとともに詩を連ね、束ねるのはご存知大岡信氏である。氏は、先頃、文化勲章を受章されたが、その功績の中にはこうした連詩への取り組みが含まれ、連詩発表の当日は、受賞記念講演会もあわせて開催された。

さて、今年、四元氏の第一編 本当ですが、オランダ語には「水平線」を意味する単語が四つもあるというのは、で幕を開けた。これを受けて、大岡氏は今回のタイトルを、「水平線の巻」と命名。果たしてこの水平線を辿った先には何かがあるのか、どんな世界が広がっているのか。それは次ページ以降、全四〇編でお楽しみいただきたい。

創作 二〇〇三年十月二十七日(木)～二十九日(土) ホテルセンタリー静岡
発表 二〇〇三年十一月三十日(日) グランシップ 十一階会議ホール・風

連

詩とは、連句や連歌の美学をベースにした創作現代詩で、毎年さばき手を担う大岡氏は、その提唱者であり、第一人者。決まった形式はないが、会では五行と三行の詩を交互に繰り返すフォームを採用。各詩にはさまざまな視点、モチーフが織り込まれ、そうした前の詩を受け、別の詩人が後の詩を創作し、繋いでいく。完成翌日の発表会では、創作者による朗読のほか、そうした繋がりを解くための解説が行われ、以下はその抜粋である。

水平線の彼方へ出帆した五人の詩人 見えたものは、死。そして、命の誕生。

【第二編 第五編の解説】

康祐… トップバッターと言われ、緊張したと同時に嬉しかったですね。水平線という意味のオランダ語は四つあることは、ある詩人が書いていたので知ってたんです。ヴィーナスの下腹はとも豊かで、ここからスタートしたいという気持ちでした。

ヘンク… 四元氏は四つあると言いつけど、私は「ホリゾン」と「インデル」の二つしか思い出せなくて。(笑)ここではインデルを使っています。

信… 「消えゆく人」とは、死んでいく人としてとらえ、正岡子規の絶筆の話を書きました。彼は二十数巻の子規全集にも入りきらないほど多作だったんですね。

ウイレム… この静岡に来て、東照宮に行き、そこで戒名を知りました。また、オランダには山がなく空が広いので、人のシルワトが大きく見える。これは水平線に絡む風景であるともいえます。

昌代… ウイレムの戒名を新しい名前とする発想から、誕生の時と死ぬ時に名前をもらつたというのは面白いと思いい誕生と死から書いてみました。

一 本当ですか、オランダ語には「水平線」を意味する単語が四つもあるというのはランボーの見たスマトラの海、北斎の見た駿河の海、ヴィーナスの下腹のようにわたしたちの眼下で言葉の水平線が上下している

二 遠方に消えていく水平線 潮とともに縮まり広がる 全ての言葉、ランボーの言葉さえ、私たちの視界から消え去る

三 消えゆく人の言葉は「遺言」とよばれ尊ばれた ひどく短い語句であるのが普通だ

正岡子規はふだんから多産な文人だった 三十五で死ぬ時も噴火をやめなかった 虫の息で 絶筆の句を三句も書いた

四 低地の国では空を背景にして人は大きく見える ここ山間の地では 人は死後に新しい名前をもらつた

五 灰をつまむ、冷えたひとの指先 三度、拝むと 風がおこり わたしたちは 塵のようにあちらがわへ吹き寄せられていく からつばのコップがぶつかりあう音 生者と死者の おこそかな乾杯

六 怒つたみたい力任せにブランコこいで 繰りかえし繰りかえし君はほくの前に現れる 永遠、つて言葉が浮かんだとき君のバッグの中の携帯が鳴った

七 きみの指先は点字を探った "なんと美しく厚塗りのほつぺだろ" "なんと気品のある顎だろ" "なんと清らかで流れ落ちる首もとだろ" "ただ その目だけは描写できなかった"

八 ロダンの庭では二頭の犬が 息せききつて追っかけている すばしこい一匹の栗鼠を

九 この辞書の中で「栗鼠」は 救いがたく迷路に入り込んでいる なにひとつ昨日までの名前をまもっていない 翻訳されたケイブルカーが虚空に吊り下がっている ただ言葉の意味する「言葉」だけが「言葉」のまま

康祐

ヘンク

信

ウイレム

昌代

康祐

ヘンク

信

ウイレム

大岡 信

おおおかまこと

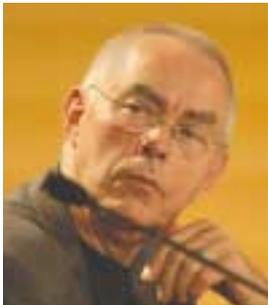
東京大学文学部卒。学生時代に日野啓三、丸山一郎、稲葉三千男らと雑誌『現代文学』創刊。54年に詩誌『権』に参加。今日まで多くの詩を発表。詩集に『春 少女に』、『世紀の変わり目にしゃがみこんで』など。最新詩集は『旅みやげにしひがし』。連詩の提唱者であり、第一人者でもある。ほかに著書『折々のつた』(通巻7冊 菊池賞賞)、『ヨーロッパで連詩を巻く』など。96年スウェーデンで連詩を巻く賞を受賞。また、03年秋文化勲章受賞。31年静岡県三島市生まれ。



ウィレム・ファン・トールン

Willem van Toorn

教師、出版編集者を経て執筆生活に入る。詩人、小説家、エッセイスト、翻訳家。多数の詩集、長・短編小説、エッセイを刊行。詩集『時に逆らって』(1960-1997)、短編『ハーレム駅』、長編『川』、エッセイ『読める風景』など。詩集でヤン・カムベルト賞、ヘルマン・ホルテル賞、ローランド・ホルスト賞を受賞。長編『からっぽの風景』でAOK文学賞、長編『ある午後の物語』でリプルス文学賞にノミネートされる。アムステルダム在住。35年オランダ生まれ。



ヘンク・ベルンレフ

Henk Bernlef

小説家、エッセイスト、劇作家、ジャズ評論家。デビュー作の詩集『鳥貝』でレイナ・プリンセン・ヘルリフス賞受賞。詩集に『静物』『狼』『誰も勝たず』など。13カ国語に訳された長編小説『痴呆症』(邦題『アウト・オブ・マインド』)は映画化され、英国のマインド・ブック・オブ・ザ・イヤー賞受賞。長編『公然の秘密』でAOK文学大賞受賞。最新作は短編集『破られた沈黙』(02年)。ペンネームはJ・ベルンレフ、アムステルダム在住。37年オランダ生まれ。



あるはずのないもの。空しい条件反射。
そして、息子を戦争へと送り出す母親たち。

【第十一編―第十五編の解説】

ウィレム…来たことのない人の、埃の上の足跡」とはあるはずのないもの。前の詩をさらに拡大した一編です。

信…ここまで詩の中に「死」という言葉が多すぎると思ったけれど、「きみが死んだことにはたほうかわかりやすいと思った。これは友人の作曲家、武光徹が病床で描いた色鉛筆の絵が源泉。彼はご馳走の絵ばかりを描いていて、それが華やかに感じただけです。
ヘンク…「ご馳走」から、パフロフの犬を連想して。でも、条件反射は犬ばかりじゃなくて、人間も同じ。テレビの前で料理番組を見ながら、よだれをたらしているでしょう。

康祐…創作場所であるホテルの最上階を見晴らしがよかつたけれど、地上に降りたい気持ちから作りしました。エラスムスはオランダの、モアはイギリスの哲学者ですね。

昌代…食べ盛りの息子を戦争に送り出す母親の姿を追いかけてみました。「知らせ」は、たぶん不吉な知らせ。流しの下は暗い闇で、恐ろしいけれどもぞき込まずにいられない。それは詩を書いている自分の不安感が表れているなと思います。

十

闇の中に浮かぶてすりのない階段のぼつているつもりが、いつのまにか降りていてわたしの足は名前もかたちもないものを踏む

昌代

十一

きみを探して家中を歩き回る
積みもった埃の上の足跡
どうしてそんなことがある？ きみはここへ来たことはないのに
扉はもう何世紀も閉まったまま
ぼくはほかの町で きみを愛したのだから

ウィレム

十二

きみが遺したスケッチ帖の数々のご馳走の絵
埃っぽい世界に別れる前に
きみが鳴らした晴れやかな鐘の音

信

十三

ベルが鳴ると 彼らはよだれをたらし始める 食いものがくるとわかって
それ以来、彼らの数はますます増えていく
(興奮して立ち上がって歩きさえもする)
夜になると皿をもってテレビの前に集まる
そして彼らの食事をコックがテレビで料理するのをよだれをたらして見ている

ヘンク

十四

ほんのりと光った梅の花を透かして吠え騒ぐ犬どもがきこえる
その庭の片隅でエラスムスとモアはまだコートピアを語り続けている
女たちは戦場へ赴く息子たちの世話に忙しい

康祐

十五

ジャガイモが芽を出し たまねぎが腐る 流しの下
どぶねずみたちが 来るべき王国の相談をしている
遠方で鳴る、小太鼓とシンバルの派手な軍曲
だんだん近づいてきて 家の前とまった
あれは何の知らせ？ 曇天の月曜日

昌代

十六

町にある標識のテキストは「パン屋」を意味するかもしれないが
「神はあなたを見ている」、あるいは「戦争が始まった」という意味かもしれない
万全を期すべく訪問者は、こみ箱や横断歩道にさえ微笑みかける

ウィレム

十七

子供にかえった昔の餓鬼ども
すこい掘出し物があったと
互いに自慢しあっている
チャンバラごっこで敵将を切った錆びたサーベル
歴史はくり返さないが 性こりもなく復活する

信

十八

武器、壺、鍋は発掘される
暗雲が 人生のすべての音を持っていつてしまった
我々は謎に浸されている

ヘンク

四元 康祐

よつもとやすひろ
上智大学文学部英文学科卒。86年より製薬会社の駐在員として米国に在住。88～90年ペンシルバニア大学大学院に留学し、経営学修士号(MBA)。詩集に『笑うバグ』『噂みの午後』など。ビジネスの世界をテーマにした詩で話題を集める。94年米国からドイツへ転居。02年アメリカ、子育て、中年シリーズの三部からなる詩集『世界中年会議』出版。第五回駿河梅花文学大賞、第三回山本健吉文学賞受賞。ドイツ在住。59年大阪府生まれ。



小池 昌代

こいけまさよ
津田塾大学国際関係学科卒。第一詩集『水の町から歩きだして』以降、詩集に『永遠に出来ないバス』『現代詩花椿賞』『もっとも官能的な部屋』『高見順賞』『夜明け前十分』『雨男、山男、豆をひく男』など。エッセイ集に『屋上への誘惑』『講談社エッセイ賞』。絵本翻訳に『雪がふりはじめたら』など。新聞・雑誌等で多くの書評を手掛ける一方、石井辰彦、四方田犬彦と詩を探る雑誌『三蔵2』刊行中。59年東京都生まれ。



運河の扉を開いて、連詩は進む。
北の国へ、瞳の先へ、小さな声に。

【第二十編～第四編の解説】

昌代：これは連詩をイメージして書いたものです。行間にどんな谷間があり、どんな橋が架かっているのか。それを読む楽しみがあり、その関係を築くことは喜びであり、恐ろしいことでもある。

信：「船」がどこまで進んでいくのかと考えると、北の国に到着して、自分は作曲家になっている。描写音楽なんて流行らない言葉だけれど、自分は気に入っている。だからあえて書いてみました。

康祐：アクロスティックとは言葉遊びの一つで、頭の文字をつなげて読むと「ま」「こ」と。つまり大岡さん。今回招いてくださったあたりがどうという気持ちと、日本の詩をリードしてきた大岡さんに、とくに私が影響を受けた初期のシュールレアリスムな詩に捧げるオマージュです。

昌代：その大岡さんの詩集に「春少女」というのがあり、また、前の詩のきらきらした感じから、子どもの頃の思い出を書いてみました。まだ、不安感のある詩ですね。

ウイレム：ちょうどこの詩を書く頃、小池さんが息子さんに電話を入れると、トクメクメクメクと言葉が返ってきてたという話を聞いたので、こんな詩になりました。

十九

いつのまにか笑顔の仮面が張りついてわたしは声がない
流れこむ日々の感情が淀んだまま臭いを放っている
わたしのなかの運河の扉を開いてください
あなたに連なることさえできれば時計は針を正してくれるだろう
たとえそれが喜びよりもっと深い悲しみを伴うとしても

康祐

二十

接触し 感電し 一瞬の炎をあげる言葉たち
おののき 遠のき また 近づく
次第に重みを増す荷を積んで けれど船は 重い波をわけ ぐんぐん進む

昌代

二十一

白熊たちが悠々と歩む
北の大雪原に到着する
オーロラの巨大な幕が揺れる
私の新作シンフォニーは
この遙かな旅の描写音楽だ

信

二十二

睫毛のさがが
恒星の光を浴びて
トレモロを奏でている

康祐

二十三

「ただいま」と言ってドアをあける
「お帰り」とふりかえった三つの顔に 少女はまったく見覚えがない
家をあとにして いっしんに走った あれからどれほどの時がたったろう
庭に残された小さなひだまりでは 縄跳びの紐だけが あたたまっていて
永遠の迷路に反響する 老女の黄色い笑い声

昌代

二十四

ママは留守 電話には小さな声がいつぱい
おなかが痛い めいぐるみの熊は意地悪な目をしている
子供は00000を押す もしかしたら魔法みたいにママの声を出してくれるかな

ウイレム

二十五

零 算数における六
反対の世界のなかを覗く
零さま すべての数字はあなたを前にして逃げ出す
あなたに飲み込まれることを死ぬほど恐れて
食いしん坊の零 すべての数字の基礎であり滅亡である

ヘンク

二十六

西方に聖なる山あり その硬き岩肌を
千万年にひとたび 聖なる鳥の羽根ありて さらりと撫つ
かくて完全に岩摩り減る時 その時間を「永劫」と呼ぶ

信

二十七

黄ばんだ掛け軸がゆっくりと夜風に翻る
その前で軒をかいているのは九州で一人暮らしをする老いたほくの父だ
彼の息子とそのまた息子はいまクレタの入江でウニを叩き割っては食べている
父もかつて故郷の海辺でそうしたがこのころはスーパーで買ってきてたべるばかりだ
父の父は父の夢のなかを漂っている、ブランドトンのように小さくなくて、仄かに光って

康祐

近藤 紀子

こんどうのりこ

翻訳家。東京外国語大学インドネシア語科卒。オランダ政府給費生としてライデン大学に留学、オランダ近代文学専攻。以来ライデン市に在住し、紀子ドゥ・フローメンの名で日本文学の紹介に努める。翻訳に大江健三郎、大岡信、安部公房らの作品を翻訳する一方、オランダ語から日本語への訳書として『西欧の植民地喪失と日本』、オランダ語の著書として『連句・夏の月』ほか。41年山梨県生まれ。



やがて一筋の光となる仔馬もつ、言葉はいらない。

【第二十九編〜第三十三編の解説】

ウイレム…前の「黒」と「白」は、詩人と読者の関係に似ていると思っただけです。最初は何も書かれていない。けれど、読者に届く頃にはかなり書かれている。「黒ずんでいく」。

ヘンク…「新しい言葉」をいつも探しているのは、「年取った詩人」。自分の世界で書いているのだけれど、ときには、「更新」することも必要だということ。

昌代…連詩も後半になって、やっと駆け出した、飛び出した、気持ちを感じるようになったんですね。前のヘンクの詩から「仔馬」を連れてきて、「光」として走らせてみました。

康祐…以前、この会に参加した、フィンランドにお住まいの大倉さんとカイ・ニクミンネの名を、「大きな倉」「櫂」として入れました。「櫂」は大岡さんが関わられた連詩の始まりでもある詩誌の名でもありますね。

ヘンク…この中の表現は残るが、そこに言葉はないというのは、非常にオランダ的で、日本語での解釈では難しいかもしれません。

二十八

朝のコーヒーに あなたはいま、もったりとしたミルクを注ぐ
カップのなかで ゆっくりと混ざり合つ、「黒」と「白」、「ある」と「ない」
受け皿にこぼれた、時の粉末

昌代

二十九

ぼくとあなたのあいだの無人地帯を新しい言葉が横切る
なんのしみもない 真っ白な紙の詩人の服を着て
校庭を元気に闊歩したり スーパーに立ち寄りたり
おや交通事故だ 朝刊紙上の馬鹿げた写真
あなたのところに着くころには 白い服はかなり黒ずんでいる

ウイレム

三十

年取った詩人が 更新するようにと言われた
彼の物書き小屋の窓から
生まれたばかりの仔馬がもがいて立ち上がるうとして見えた

ヘンク

三十一

キャベツ畑に並んでいる、無口なキャベツを勢いよく蹴飛ばして
駆け出していった無名の仔馬
初冬の晴れた日曜日、迷い込んだのは第九レース ここは東京・府中競馬場
大歓声のなか一着でゴールイン、そのまま柵を乗り越えて逃げていく
いつしか 光そのものになって

昌代

三十二

大きな倉の壁に濃い影を落とす一本の櫂
森の奥で朽ち果ててゆく宇宙船
かすかな唄声が雪をふむトナカイの蹄に纏れる

康祐

三十三

舞い上がった鴉は自分の話を持って飛び去っていく
砂の上の途絶えた足跡 表現は残るが、そこに言葉はない
部屋から這い出る影 オレンジのにおいのする 空の果物皿
何にも 手をつけるな
もうこれ以上 言葉はいらない

ヘンク

三十四

年取った女性の柔らかい肌に
何千というよるこびと悲しみの皺がある
しかし広告と言う 皺を伸ばしなさい 若くないなさい 思い出を捨てなさい

ウイレム

三十五

小柄な青い瞳の色白なニーナは
スイスの山荘で惨殺された
賊はコレクターとして知られた彼女の宝石が目当てだったが
貴重な思い出のつまつた夫カインディンスキーの絵には手をつけなかった
こんなへんな絵は値ぶみさえできぬと 賊は批評家になって思ったのだ

信



発表 グランシップ会議ホール・風



創作 ホテルセンチュリー静岡

ネットレスから解き放たれるとき。
爛漫と落花が宴の終わりを飾る。

【第三十六編 第四十編の解説】

昌代…自分で自分を苦しめている真珠のネットレスとは、イコルこの連詩の創作であるんですね。最後の詩を迎え、ネットレスがはじめて、やっと自分もやっと解放されると。

康祐…会場の隣には通称「こもりの間」といっのがあって、ここで初めてその部屋を使って書いたものです。つい先日幼い娘を亡くした友人へのレクイエムにもなっています。

ヘンク…「おもちゃの羽根」から「天使」を連想しました。プリューゲルの作に農夫の絵があって、このようなことを思ったんだけど、人に話すと災いが起こると思って黙っていた。それを詩にしてみました。

ウイレム…「農夫」が地面を耕すのを想像して、地上と空とがコントラストになっています。

信…この連詩には、「梅の花」「百合の花」も出てくる。だったら、日本の代表的な花も咲かせたいなと。「爛漫」は「もぢぢん」落花「と」つのは「桜のま」も美しい姿の一つですね。連詩を美しく終わらせたいと思ったわけです。

三十六

三十人目の赤ん坊を孕んだ 子沢山のマリアは一時間ごとに太る
首元にくいこんだネットレスがはちきれて 床をうつ真珠の こぼれ落ちる音
どんなにかきあつめても 全部そろわない 永遠に欠けた あの一粒はどこに？

昌代

三十七

おもちゃの羽根を背中につけた幼い娘が
庭から摘みとった百合の花を手に駆け寄ってきたとき
あたしは不意に分かった いつかあたしは旅立つだろうと
喜びの河がながれこむ深い谷間の向こうへ
裸足に血を滲ませながら

康祐

三十八

ある農夫が空から誰かが落ちてくるのを見、ぼちゃんという音を聞いて天使だと思った
水面の波紋を眺めながら じっと考え込んで 誰にも話さないことにした
ずっと後になって お断がうまれた

ヘンク

三十九

庭師が庭を手入れしている
土を掘り起こし 刈り込み 植える
つかの間の秩序だと知りながら
鶴が渡る
ずっと大きな設計図

ウイレム

四十

見れば梅の花も 百合の花まで咲いているじゃないか
ではこの庭に桜をも招き入れ
爛漫と落花の舞いを演じさせよう

信

創作 二〇〇三年十一月二十七日(木)起
同月二十九日(土)満尾

於 ホテルセンチュリー静岡

参加者 詩人 ヘンク・ベルンレフ

ウイレム・ファン・トールン

小池昌代

四元康祐

大岡 信

翻訳

近藤紀子

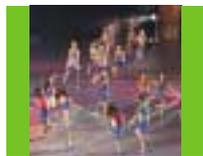
発表 二〇〇三年十一月三十日(日)

於 グランシップ十一階会議ホール・風

主催 財団法人静岡県文化財団
共催 静岡新聞社・静岡放送

SPECIAL II
Moving Music Express
FLORA2004

に生まれた総合芸術パフォーマンス。これがこの「トビנג ミュージックエクサプレ」である。世界で唯一、グランシップが静岡県民参加のもとにおとどける。動く音楽スベクタクル。三回目を迎えた今回、果たしてどんな顔ぶれ、どんな趣向で展開されるのか。参加者、観衆ともに、期待のボルテージは高まるばかりだ。



聞いて感動! 見て楽し
これが音楽パフォーマンス

毎回、新たな感動を生んできたMME。
第三回を迎えた今回、テーマは「花」。

グランシップが開館した一九九九年、
 グランシップ独自の総合芸術パフォーマンス
 スとして上演された『ムービング ミュ
 ジック エクスプレス』。子どもから熟年
 まで総勢五〇〇名の県民参加をプロが
 支えるというカタチで実現。大ホール・
 海の大空間を生かして、歌、マーチング、
 ダンス、演奏による壮大なストーリーが
 紡がれた。

そして、二年後には第二回を開催。さ
 らに開館5周年を迎える二〇〇四年
 には、その記念イベントの一つとして、
 第三回目が開催されることとなり、
 期待が高まっている。

●今までとはちよつと違うMME

さて、第三回となる今回は、第一回、第
 二回とは趣向がやや異なる。というの
 も、これまではあるストーリーをもとに
 展開してきたが、今回は多くの人にさ
 まざまな思いを巡らせてもらえるよう、
 メッセージのあるステージになりそうだ。
 そして、テーマは、来春四月から始ま
 るビッグイベント『浜名湖花博』にちなん
 で、「花」。出演者たちは「花」をモチー
 フに、「希望に花を添え、花にメッセージ
 を添えて」パフォーマンスを繰り広げる。

●すばらしい出演者たち

MMEといえば、その多彩な顔ぶれ
 も魅力の一つ。今回は、NHK交響楽団
 首席チェロ奏者の藤森亮一、世界的ユ



第1回のMMEでは、ナレーションに俳優の榎木孝明、サクソフォンに須川展也など、多彩なゲストを迎え、「宇宙、生命の悠久の流れ」をテーマに壮大なストーリーを展開。
 谷川俊太郎の詩集『二十億光年の孤独』をモチーフとしたダイナミックなステージが感動を呼んだ。(1999.8.21/大ホール・海)



山崎 昌平 (総合演出)

千葉国体を皮切りに、さまざまな「国体」「インターハイ」などでマーチング及び集団パフォーマンスを指導。「これまで同様、出演者のエネルギーが一番の力。そして、今回は素晴らしいプロフェッショナルの演奏家、パフォーマーがたくさん登場します。県民の出演者やお客さまが“本物”に触れる、いい機会だと思います。若い人からお年寄りまで、健常者から障害を持つ人まで、心のバリアを取り払って楽しい体験を共有しましょう。」

ムービング・ミュージック・エクスプレス 'フローラ2004'

Moving Music Express FLORA2004

2004 2/15(日)

PM2:00開場 PM3:00開演

グランシップ大ホール・海

全席指定 S席 3,000円 A席 2,000円<税込> ※学生割引各1,000円引き

- マーチングバンド/蒲原ジュニアプラスバンド、袋井南小学校マーチングバンド South Winds、総合警備保障女子儀仗隊
- ダンス/車椅子社交ダンス普及会静岡支部 ■バトン/PL静岡第一 MBA
- アカベラ/のんたん、リハビリ・シンガーズ、焼津市民合唱団 ■演奏/原田忠幸オールスターズ



「モノ」が「コト」になるために。

佐藤 信 (劇作家・演出家)

来春上演の『夢の浮橋』で作・演出・美術にて参加。
「チケット発売記念トークショー」出演の折に来館。(口ノ3交流ホール)。

静岡というこの位置に、グランシップのような一つのコアがあることは、東京と名古屋、大阪を繋ぐ上で、また、面的な広がりのために、も特別重要だと思っています。ただ、劇場というのは、「あるもの」ではなく「なるもの」。「モノ」ではなく「コト」だと思ふんです。だから、グランシップという素敵なモノが、コトになることが大事なんです。そして、もちろん古いものを

大事にすることは必要だけれど、もっと大事なことは、これから静岡の個性をいかに創っていくかということ。でも、だからといって、それをハードやソフトで考えるのは、僕はあまり好きじゃないんです。コトをソフトで考えると、事業になつてしまふ。いちばん考えなければいけないのは、地域の人であつて、その方たちがここをどのようなものになることを望むのか、

そこを絶えず求めていくしかないんじゃないかと思うんです。行政の劇場というのは、専門家がいないからダメだと言われたりしますが、僕はそこに利点もあると思います。行政マンというのは、地域のことをよく知っている。下水をおやりになるのと同じ観点で考え、地域の方たちの要望をフィードバックさせていく。それが何より大事だと思いますね。

ホニウム奏者の外圍祥一郎に加えて、パトントワリングの世界チャンピオン稲垣正司やブロードウェイのステージ経験をもつパーカッション奏者石川直、さらにはピアニスト白石准や往年のジャズプレーヤー原田忠幸、原田勇など、素晴らしいゲストが顔を揃えた。

また、日本を代表するマーチングバンドの二つである総合警備保障女子儀仗隊に、県内小学生のマーチングバンド、女声合唱団、アカペラグループ(あのハモネプ東海地区代表「のんたん」も登場)のほか、車いす社交ダンス普及会が集結。

総合演出はこれまで同様に山崎昌平、進行はテレビドラマのお父さん役でお茶の間にもおなじみの新井康弘。さまざまなジャンルの人たちが集まってつくり上げる、グランシップならではのコラボレーションといえるだろう。



「海」をテーマにした第2回MME。女優の櫻井淳子を語り迎え、音楽監修・キーボードの真島俊夫をはじめ、第1回とは顔ぶれがひと味違うステージを展開。魁鼓による勇壮な太鼓の響きも印象的だった。(2001.9.23/大ホール・海)



稲垣 正司 (バトン)



白石 准 (ピアノ)



石川 直 (パーカッション)



原田 忠幸 (バトンスックス)



藤森 亮一 (チェロ)

NHK交響楽団首席チェロ奏者

「今まで同じステージに立つことのなかったジャンルの人達とご一緒できるのが、非常に興味深いです。当日のお楽しみですが、新しい試みにも挑戦してみたいと思っています」



外圍 祥一郎 (ユーホニウム)

ユーホニウム奏者

「すばらしい曲ができあがりそうで、しかも静岡の皆さんをはじめ、共演者がまた素晴らしい普通のコンサートでは経験できない感動がステージの上でも客席でも味わえそうです」



新井 康弘 (ナレーション)

幼い頃からテレビに出演、「笑点」のちびっ子大喜利で人気沸騰。その後、テレビドラマ「岸辺のアルバム」「沿線地図」(いずれも山田太一作)などでシリアスな演技を披露、存在感のある俳優として活躍。TBS系ドラマ「大好き五つ子」シリーズの頼もしい父親役も好評、舞台では「ピロクシー・ブルース」(ニール・サイモン作)、「かくて新年は」(森本薫作)など多数出演、自然体の演技が好評である。

竹本 素京

芸は心。義太夫は心。

「思つのは結局 芸人は心なのね」

真打ちになりたての頃、

師匠は「お金で買った芸はええもんやない、

自分の心で買ったものは違つて」と言っただけで、本当ね、今度の舞台だつてそつ。心が大切なのよ」

三歳から稽古。五歳で初舞台。

さすが娘義太夫のスター、寄席中の耳目を一身に集めてきた人の話は違つと思つた。廻り舞台のようにそれぞれの情景を話の向こうに映し、イキイキと語り綴られてゆく半生のドラマ。事実は小説よりも…というのがそれは真。ここにそのすべてを、紹介できないのは、ただただ残念である。それでも幾たびの人生の波をしなやかにかわし、「ふふふ」と軽やかに笑いとばすがごとく語る氏の、その魅力の一部でも伝われば、幸いだけども。

お生まれは浅草の千束町だそうですね。唇間からお琴や三味線の音が聴こえてくる、

とても粹なところだったとかがつてます。

「隣が吉原だね。新道(しんみち)という路地を入っていくと、お店に出せないような、身体のお悪いお女郎が三丁四人住んでいる家があって、子ども頃はよく塀の下から覗いて手を振ったりしてね。その隣がお婆さんの家、その裏に義太夫のお師匠さん。路地から通りの方に出てくると、新内(しんない)のお師匠さんがいて。私の母も長唄の師匠でした」

お祖母様も常磐津をおやりになり、伯母様はあの松旭齋天勝と兄弟弟子でいらっしゃるなど、芸事に秀でたお血筋ですから、義太夫はごく身近なものでいらしたんですね。「とごうより、昔は誰にとっても身近なものでしたよ。ただ、私の伯父が役者でしたの。その女房が義太夫のお師匠さんで。つまり義理の伯母ですね。その伯母のところ三つの頃からお稽古に通ったんです」

三歳では、浄瑠璃を読んで覚えるのは難しかったのではないかと、

「読める読めないの問題じゃないの。何を言っているのか、わからないんだから。(笑)ただ、師匠は私の顔を見ろ」と。顔を見ていれば、口がわかる。目もわかる。で、ひたすら語っているうちに、おぼろげにわかるようになって、「今は女の台詞だから、こいつのことか」と。そんな風だから、楽しいも何もないけれど、ただ、ありがたかったのは、新兵衛という伯父の弟子が私をおぶつて稽古に通ってくれたことね。新兵衛が調子の悪いときには、五三郎というのが代わりにおぶつてくれました。だから、私は今でも毎朝仏様にお参りするときに、最後には「新兵衛」

「五三」と声をかけるんです。

初舞台は、五歳のときですね。

「私は身体が小さかったでしょう。だから幕を開けた途端、顔が見えないよ!」誰が出ているんだ!とお客さんに言われたのを覚えてます。で、すぐに幕を閉めて、ちょっと見台から顔が見えるくらいまで座布団を重ねて敷いて。初孫ですから、とにかく祖父や祖母が喜んでね。お菓子を持ってきて、お客さんにご苦労さんと渡す。それが子供心にも嫌だった。なんでオベンチャラするんだろって。もらったお菓子を食べる間、お客さんは私の芸なんか聞いてくれないじゃないの...なんてね。生意気でしたな」

小学校を卒業される前には、すでに娘義太夫として舞台上に立たれていたそうですが、「実は九歳のとき、父が結核にかかって、母が長唄の稽古をしていらなくなっちゃたんです。父親は痩せていくし、母親は可哀想だし。で、なんとか孝行したいと伯母に相談すると、義太夫の事務所の話をつけてくれたのね。しかも普通はまだお客さんの入りの少ない時間の、口語り」といつころから始めるんだけど、うちの喜久(素京氏の本名)にそれはさせない、その二つ上の三ツ目(三ツ目)でよろしくと。それで舞台上に立ち、お客一人につき何厘という具合に「割り」がもらえるようになった。「祝儀もいたでけるでしょう。あるとき、舞台の後、祝儀をくださったお客さまにご挨拶に行くよ、黒マフに鳥打ち帽子、眼鏡にマントを着た人が立っている。義太夫が好きなの?」と聞くから、「ハイ」と答えると、「一生やるの?」と聞く。あ、ど



花沢梅喜久を名乗っていた14歳の頃。娘義太夫のスター、どの小屋にもかけつけてくれる“追っかけ”も多かったという。



こかで聞いた声だなと思うてよく見ると、学校の先生だったの。昔は学校の先生というのには、芝居なんか見ちゃいけないかったのよ。だから、変装して来たのね。その頃の私は、学校、お稽古、昼夜の舞台という生活で、学校では居眠りばかり。宿題もやってない。先生も変だと思って調べたんですよ。つきり怒られるものと思ったら、先生はこつ言ったの。「こ

の道に進むのなら、これを一生懸命やりなさい。居眠りもいけないけど、皆にわからないように寝なさい。(笑)以来、居眠りすると机をムチで叩いて、廊下に連れて行って寝かせてくれた。今、そんな先生はいませんよな」

最後の女弾き語り。

当時、真打ちになるのは、とても大変だったそうですね。

「昔は試験があったの。でも、私の頃には試験はなくなっていて、そのかわりにお金が必要だった。旦那、つまりスポンサーね。それが私は嫌だね。あるとき(豊沢)雷助師匠に「なんで真打ちにならんのか」と聞かれて、「お金がないんです」と答えたら、怒ってね。蹴飛ばされたの。芸といつのは金で買うもんやない、心やと。それで私も覚悟を決めたわけ。雷助師匠といつのはとても位の高い人でしたけれど、その師匠が自ら三味線を弾いて、文楽の方たちに私の義太夫を聴かせたの。まあ、試験のようなものですね。で、皆さんがええやないですか」と言ってくれました。するとね、あの悪い師匠がおおきに、「おおきに」と頭を下げて、「これが真打ちになっても、なんぞあつたら教えとくんははれ」と。そして、皆が帰った後、私に一言、よつやつたと。これは本当につれしかったですね。そして、めでたく看板上げの際にはやがて嫁ぎ先となる江戸糸あやつり人形芝居の、結城座から半纏をいただいたそうです。「九代目孫三郎、後の義父が寄越したんで

【たけもとそきょう】

義太夫師。3歳で伯母の花沢梅光から義太夫の手ほどきを受け、5歳で初舞台。最年少の11歳で花沢梅喜久の名でプロの芸人に。その後、竹本素昇、豊沢雷助に師事。17歳で真打ちとなり、竹本素京を名乗る。19歳のとき、初代結城一糸(後の十代目結城孫三郎、結城雪齋)と結婚。34年大阪公演を最後に娘義太夫の世界から退き、以来、結城座のための義太夫を語り、海外を含む数多くの公演に参加。88年『竹本素京 義太夫の会』として独演会を再開。東京都の助成を得て竹本素京の義太夫を永久保存。『壺坂霊験記』『新版歌祭文』など全12段を録音。99年文化庁長官表彰、03年芸能功労者賞受賞。14年東京生まれ。



すね。私は小さいうちから結城座の舞台に出たのでしょ。子どもでおしゃまな義太夫をやるというので、すごく可愛がってくれたの。でもね、私は「この座ばかり出ている」と、私の芸は落ちるぞと思った。だてで違つてしょ。自分の世界で語る義太夫と、チヨボ語りと呼ばれる人形を生かすための義太夫とはね。だから、十五のとき、本業で立つていくためにしばらく休ませていただきたいと、生チャンな口をきいて辞めたの。そんなこんながあつて、真打ちの挨拶に行つたら、お祝に何かあげようと言つ。それで半纏をくださいと。なにしろ半纏は高かつたから。(笑)三十人分だつたかしらね。そんな具合で、結局、真打ちになるのに自分のお金は使わずに済んじゃつたの」

義太夫では、三味線弾きとは舞台の上での夫婦といえますね。

「私が亭主、三味線弾きは女房ね。私は生涯、二人の女房を持ちましたが、結構いい女房でしたよ。三味線は、語りの一足先に出て、語りをリードする。それをくついでやつたらダメなのね。だから、三味線弾きも難しいの」

現在は、「自身で三味線を弾き、語る」という、いわゆる弾き語りのスタイルですが、「仕方ないでしょ。弾いてくれる人がいなくなっちゃつたから。いつだったか、文楽の三味線弾きさんが見に来てね。お師匠さん、丈夫でいてくださいよ」と言つ。女で弾き語りをやる人は、お師匠さん一人だ

けでつせ」と。義太夫の弾き語りというのは、三味線に語りがかつつきやすい。だからそれをやる人は昔からそつ多くはなかつたの。それでもちよつと前まではいくらかいたんですけれどね」

その弾き語りを、来春グランシップで上演の「夢の浮橋」で聴けるというので、今からとても楽しみです。演出の佐藤信氏とは数十年前のおつきあいだそうですね。

「マクベス」なんかもそうだけれども、こついつ新作ものでは、曲作りが大変なのね。三味線に現代の言葉をのせるのが難しい。だから、どうなるかしらね。(笑)信はね、亡くなつた主人(十代目)のすこいファンなの。主人のほうも、信の演出は人形が扱いやすいと言つてました。人形を操るにもその人によつて役々があつてね、義父には世話物の色気があり、主人には時代物で品のよい色気があつた。思つのは、結局、芸人は心なのね。昔、雷助師匠に、おまはんの芸には心がないな」と言われたことがあつたのね。たとえば『傾城恋飛脚』「けいせいこいびきやく」なら、遊女梅川と忠兵衛は、手に手をとつてどの道を往き、どんな思いで時を過したか。おまはんはほんまにわかつてるのかと。そつ言われて、ああ、そつかと思つた。真打ちになつたの頃、師匠は、お金で買った芸といつのはええもんやないで。自分の心で買ったものは違つて」と言つたけれど、本当ね。今度の信の舞台だつてそつ。もちろん芸事だけじゃない。どんなお商売も心。心が大切なよ」



チケット発売中

2004.3/27(土)・28(日)

グランシップオリジナル制作 糸あやつり人形芝居

夢の浮橋 ~人形たちとの「源氏物語」~

作・演出・美術/佐藤 信 人形美術・意匠/山口小夜子

出演/竹本素京(義太夫)、結城孫三郎、結城一糸、結城千恵 他 結城座 ◆ 穂谷友子

2004.3/27(土) PM5:30開場 PM6:00開演

3/28(日) PM1:30開場 PM2:00開演

PM5:30開場 PM6:00開演

グランシップ 中ホール・大地

全席指定/前売 4,000円(税込) 当日 4,500円(税込)

